2022年2月13日(日曜日)　第3種郵便物認可　1部235円

教界ニュース

「仕事で神と隣人に仕えるって、どういうこと?」

「神様と冒険に出かける楽しさがある」

LIGHT PROJECT「信仰と仕事セミナー」

信仰と仕事ミニストリー「LIGHT PROJECT(ライトプロジェクト)」(ディレクター・サックス知子)の「信仰と仕事セミナー」が1月15日、オンラインで開催された。テーマは「仕事で神と隣人に仕えるって、どういうこと?」。当日は2人のスピーカーの話を聞くと共に、参加者同士でディスカッションした。

◇　◆　◇

最初のスピーカーは薬剤師の赤坂英里さん(関西福音交友会・東灘バプテスト教会)。赤坂さんは、化粧品メーカーへの就職を願っていたが、結局、先輩が働いていた薬局に就職。以来、ずっと調剤薬局で働いている。「自分のやりたい仕事ではなく、いつも心のどこかで違う仕事がしたいという思いがあり、次第にこの仕事で良いのか、私の人生の目的は何なのかと深く考えるようになりました」

赤坂英里さん

そんな中、2018年クリスマスにイエスと出会い、クリスチャンになった。ただが、「相変わらず、仕事は神様のためではなく自分のため、自分が快適な生活を送るための手段だと思っていた」と語る。『食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すために しなさい』(Iコリント10・31)と言われても、仕事でどのように神様の栄光を現わせばいいのか全く分からなかった」。

仕事への情熱がどんどん減っていく中でライトプロジェクトのコースを受講。「神様の目には、すべての仕事が尊いものであり、仕事が礼拝行為であるとも言える、と学んだ。御心からいかに外れた仕事をしていたかに気づかされ、悔い改めた。そして、神様が今の仕事を与えてくださっていることに感謝できるようになり、仕事自体は変わらないが今までとは全く違うものになってきた」と語った。

西本慎之介さん

2人目は、電機メーカー勤務の西本慎之介さん(同盟基督・招待キリスト教会)。入社5年目で、エンジニアが開発した技術の特許を管理する仕事をしている。「正直、なんてつまらない仕事なのかと思った」と言う。「もともと研究者を目指していたがなれなくて、今の仕事に就いた。研究者の道から外れてしまったと挫折感があり、今している仕事は劣った仕事だと、ずっと思っていました」

そんな中でライトプロジェクトの「信仰と仕事」コースを受講し、学んだ。「創世記1章28節の『地を従えよ。(中略)すべての生き物を支配せよ』の意味は、神様がお創りになったものを、私たちが養い、管理しなさいということ。それが仕事の目的だと学んだ。では、自分の仕事も神様から与えられたものなのか、と考えながら祈り始めた。祈っていたら、新しい仕事が与えられた」

その新しい仕事とは、会社の中で環境保護に貢献できる技術の特許を使って、他の企業と協力体制を作る、というものだった。「この時、自分がつまらないと思い込んでいた仕事と、『地を従えよ』という御言葉が、環境保護を通じて結び付いた」

「苦しい中で、信仰を持って働くと、それ以上に楽しいことがある」と西本さん。「それは、人に褒められたり、給料が上がったりする楽しさとは違い、神様と一緒に冒険に出かけるという楽しさ、御言葉と自分の日々の仕事が具体的にどう結び付いているのかを発見する楽しさです」

「神様は、研究者としての評価されることよりもっと大きくて意義のある目的を与えてくださった。『地を従えよ』という命令は、人間全体の大きな目的でもある。この環境保護という大きな目的に、仕事を通して参加させてくださる神様に感謝します」と結んだ。

2人の発表を聞いた後、参加者はいくつかのグループに分れ、あなたにとって仕事はどういうものか、信仰がどう関わっているか、についてディスカッションした。

参加者からは、「神様の視点があると、仕事への取り組み、困難に出会った時の気持ちの持ち方が根本的に変わってくるように思った」、「今、人を育てる仕事をしているが、すぐに成果が出ず、良くも悪くも一人の人生を大きく変える仕事なので祈らざるを得ない」などの感想が聞かれた。

【中田　朗】